



もも・ネクタリン特報 ⑫（ボルドー散布）

本年のせん孔細菌病の発生状況は、全体的に少発生です。ただし、昨年と比べると果実病斑が散見されました。そのため、秋季ボルドー散布を実施し、越冬菌密度を減らすよう努めましょう。
（風雨による落葉と感染が同時に起こり、次年度への越冬菌が増加します）

【せん孔細菌病対策 収穫後の薬剤散布】 収穫中の作物、隣接園への飛散（農薬汚れ）に注意

※せん孔細菌病発生園は、ボルドー3回散布を徹底し、散布間隔は14日以内を厳守する。

※台風襲来等の風雨が予想される前日までに散布を実施する。

※薬剤が樹全体に到達するように、散布前に徒長枝切りを実施する。（重要）

散布時期 散布品種	第1回 ボルドー散布	第2回 ボルドー散布	第3回 ボルドー散布
・早生種～中生種 ・晩生種(川白、黄金桃など)	収穫後(9月中旬～下旬)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後
・極晩生種(白根白桃など)	収穫後(9月下旬～)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後

もも

下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

散布時期	9月中旬～（収穫終了後）
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤（アピオンE） 50ml ICボルドー412 3.3kg 劇ダイアジノン水和剤 34 100g （前日、4回） ※加用は1回のみ
対象病虫害	せん孔細菌病、カイガラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、アブラムシ類
散布量	10a 当たり：500ℓ
注意事項	① ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないよう注意する。

ムッシュボルドー 体系

散布時期	9月中旬～（収穫終了後）
散布薬剤	水 100ℓ 当たり 展着剤（アピオンE） 50ml ムッシュボルドーDF 200g 劇ダイアジノン水和剤 34 100g （前日、4回） ※加用は1回のみ
対象病虫害	せん孔細菌病、カイガラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、アブラムシ類
散布量	10a 当たり：500ℓ
注意事項	① ムッシュボルドーDFに代えて、コサイド3000の2,000倍でもよい。 ② 薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（汚れに注意）

【注意事項（共通）】

① アピオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。

※KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。

② コスカシバ対策：フェニックスフロアブル4,000倍（収穫前日、2回）を樹幹及び主枝に十分かかるようにする。

ネクタリン

下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

散布時期	9月中旬～（収穫終了後）			
散布薬剤	水	100ℓ 当たり		
	展着剤（アピオンE）	50ml		
	ICボルドー412	3.3kg		
	劇ダイアジノン水和剤 34	100g	（21日前、3回）	※加用は1回のみ
対象病害虫	せん孔細菌病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫			
散布量	10a 当たり：500ℓ			
注意事項	① ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないよう注意する。			

ムッシュボルドー 体系

散布時期	9月中旬～（収穫終了後）			
散布薬剤	水	100ℓ 当たり		
	展着剤（アピオンE）	50ml		
	ムッシュボルドーDF	200g		
	劇ダイアジノン水和剤 34	100g	（21日前、3回）	※加用は1回のみ
対象病害虫	せん孔細菌病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫			
散布量	10a 当たり：500ℓ			
注意事項	① ムッシュボルドーDFに代えて、コサイド3000の2,000倍でもよい。 ② 薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（汚れに注意）			

【注意事項】

- ① アピオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。
※KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。
- ② コスカシバ対策：フェニックスフロアブル4,000倍（収穫前日、2回）を樹幹および主枝に十分散布する。

【秋季剪定について】

本年の生産状況を振り替わりながら樹冠下の明るさや樹勢を確認しながら、来年の生産に繋げていきましょう。

また、せん孔細菌病対策であるボルドー散布をかかりやすくする目的も含めて実施をお願いします。

注意事項

- ※1 凍害を防止するため、5年～8年生までの若木・樹勢の弱い樹の秋季剪定は極力行わない。
（ボルドー散布をかかりやすくするための徒長枝整理は実施する）
- ※2 大きな剪定後の切り口には、必ず癒合剤（トップジンMペースト・バッチレート等）を塗布する。